



政府は米軍の奴隷？

翁長知事の埋め立て承認取り消しに対し、防衛省は行政不服審査法に基づいて、農水省に審査請求と執行停止を申請。農水省は10月27日、翁長知事の取り消しの効力を停止。

行政不服審査法

左に示す同法第一条を見て欲しい。申請出来るのは国民。政府が申請し政府が判断とは、茶番劇。

これが通るなら、地方自治体が何を決めても国はひっくり返せることになる。地方自治

行政不服審査法
第一条 この法律は、行政庁の違法又は不当な処分その他公権力の行使に当たる行為に関し、国民が簡易迅速かつ公正な手続の下で広く行政庁に対する不服申立てをすることができるための制度を定めることにより、**国民の権利益の救済**を図るとともに、行政の適正な運営を確保することを目的とする。

の否定だ。

石井国土交通相は27日、「普天間飛行場の移設事業の継続が不可能となり、周辺住民の危険性が継続する」と説明。「普天間は危険だから飛ばせるな」と米軍に云うのが政府の本来の役割。ブレーキが壊れた車に「修理が済むまで、そのまま走れ」と云う様なもの。沖縄県民をどう心得ているのだろうか？

と思つたら、横浜でも同様の事態があった。横浜、根岸の米軍住宅地に四囲を囲まれて住む日本人がいる。出入を米軍の警備員がチェック。宅急便も簡単には受け取れない。水道電気などの問題も防衛省は米軍と交渉しようとしなさい。政府は米軍の奴隷のように見える。みなさんはどう思われますか？

ひよっこりひよつたん島

岩手県大槌町蓬萊島



蓬萊島はひよっこりひよつたん島のモデルとなった島。大槌湾の湾口近く、海岸から三百m位の所にある。3・11の東日本大震災前は島と陸を繋ぐ防波堤があった。大津波の時には海岸に沿う津波の勢いを削いだらしい。しかし、津波には耐えられず、防波堤は崩壊。灯台も壊れ、島にあった弁天様も被害を受けた。

職場美術協議会では被災地応援の一環として、ひよつたん島復興プロジェクトを応援。その縁で、今回の職美協写生会で訪れた。

既に、防波堤や灯台の復旧は完了。小さな岩だらけの島。雨水だけを頼りに緑も復活していた。

この島に子供達が遠足に来たら、島が漂流し始めたとは、井上ひさしの発想は面白い。

先週は休刊。来週も休刊予定。